



今回は後免中町公民館で活動している「日本画教室」におじゃましました。

# われら仲間 元気之源 日本画教室



お昼過ぎ、大きな袋を抱えメンバーが一人、二人と公民館に集まってきました。「日本画教室」の練習日は第一第三水曜日の正午から午後四時まで。メンバーは平均年齢六十歳の女生五人で、始めて二年目の人や中には十年以上というベテランも。「大変やさしくて、的を得た指導をしてくださいます」と評判の西本倍榮先生を中心に、皆さん、毎回の練習日を心待ちにしています。

題材は「花」がほとんど。菜の花、ひなげし、時計草...歩いていてもつい、道沿いに咲いている植物が目が向いてしまうとか。「絵を描き始めて、観察力がついたかな、細部にわたって花の仕組みが分

かったような気がします。自分でつくって描いているところは必ずつじつまが合わなくなり、先生に見破られてしまわぬです」とメンバーたち。作品はオールドパワー展、市展、女展など積極的に出品しています。皆さんかなりの腕前で、数々の賞を受けており、「賞をもらうと励みになり、どんどん欲が出てきますね」と意欲満々！

「私たちがとってこの教室は活性剤、元気になれるところ。絵を描くだけじゃなく、仲間とおしゃべりや交流がとて楽しいです」と笑顔で話してくれました。

日本画に興味のある方、ぜひ、この日本画教室に参加してみませんか。

このコーナーでは、同じ趣味を持った方たちの楽しい活動風景を紹介しています。「私たちのサークルを取材してほしい」と思われる皆さん、ぜひ応募ください。

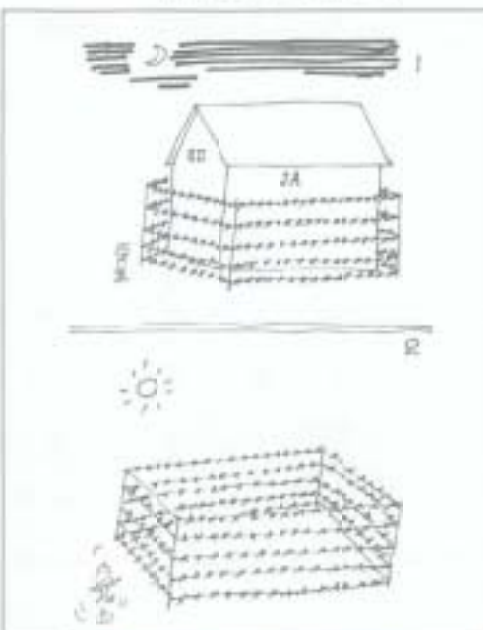
◆応募方法 サークルの代表者の氏名、住所、電話番号、活動場所、それに活動内容を簡単に明記

◆あて先 〒783 南国市大浦甲二二〇一 南国市企画課 広報統計係

# 市民サロン

このページは市民の皆さんが作るページです。短歌、俳句、川柳などの文芸作品やどんなことでも結構ですので皆さんのご意見をお気軽にお寄せください。締め切りは毎月10日です。あて先は南国市企画課市民サロン係（〒783 南国市大浦甲2301）です。

## コメドロボウ 古谷栄幸（植田）



# 第7回南国手作りビデオコンテスト

◎同豊城賞  
公文公「香長中応援合戦」



◎やまもも賞  
西部保育所「おとまりほいく」



◎まほろば賞 源三知男  
「まんだら石本南海男の仙像」



◎えんこう賞  
高島竜一「はみがきしんちゃん」



第7回南国手作りビデオコンテスト入賞者は次の方々です。おめでとうございます。

◎オナゴドリ賞  
田島隆夫「うちのおばあちゃん」



◎たちばな賞 澤田幸広  
「'91土佐日記門出のまつり」



◎土佐日記賞  
国府史跡保存会「貫之まいる第10回紀貫之墓参旅行の記録」



## 南国俳壇

新暮の庭に嬉しやつわぶきの花  
ドクターの言葉待つ間の紫陽花  
コスモスを抱き寄せて聞く風の音  
女将の人を降に秋あかね  
鶴頭にするとき眠る月の  
寝返ればしゃりつと音す秋枕  
切り株のためらい傷に秋時雨  
冬うららぬ温室の紗をはねてあり  
神の留守番請の梯子掛けてあり  
暖電出せば高所の鳩たける

緑ヶ丘 細美ゆき  
里改田 福井英子  
里改田 福井博子  
里改田 岡田寿子  
東崎 森本三三三  
稲生 前田昭子  
西野田 山岸雅恵  
前浜 浜田久子  
前浜 竹島いほほ  
浜改田 浜田東風

## 南国柳壇

減反だそれ山作だど農感し  
仏より自分の好み供物  
野に立てば手足冷たく木犀の  
香りよふ秋の夕暮  
コスモスの花群ゆれて見え隠る  
若人らの声はづみ湧きたり  
さおにつくボラの姿におどろきを  
世閉苦しに花吹かして  
落葉も運命と思ふ木立ら秋  
美空の花に心和みぬ  
米と金あつての貧乏はしよいのう  
故老の名古今想い出す  
色々の花は咲けどもひまわりは  
朝に夕べに向かえんとす  
残照の雲は動かす揺して  
光流れ居り石路の葉の斑に

廿枝 島田八重子  
十市 八松久幸  
三島 有元一馬  
立田 北村幸江  
植野 中上百出子  
田村 川口岩春  
百野田 土村優子  
大浦 中田憲秀  
立田 池田小村

## 南国歌壇

## これはなんでしょう



答えについての思い出などもお待ちしています。

◆しめきり 12月10日

◆あて先 〒783 南国市大浦甲二二〇一 南国市企画課 親子クイズ係

◆賞品 正解者の中から抽選で5人の方に図書券を進呈

◎第9回親子クイズの答えは、ぶどうでした。

第9回当選者発表（敬称略）  
（応募総数34通）  
小松裕子（岡豊町）  
大谷由香（藤原）  
小谷さくら（大浦）  
楠橋桃子（奈路）  
坂本沙樹（上末松）

## 思い出がっばい

◆嫁いできたときは手入れのことなどにも知りませんでした。皆さんによく教えてもらって、やがてつづらな夫がたぐさんなつたときは、ほんとかわいらしく、うれしくてたまりませんでした。

◆まもなく四歳になる孫は、どうが大好き、つめの間を紫にしながら、この夏も甘酸っぱい味覚を楽しんでいます。

◆昔はぶどう酒を家で作って家族が飲んでいました。

◆ぶどうは果物の中で一番好きです。ぶどうをそのまま冷凍庫の中で冷やし、アイスクリームにしたいと、お風呂に入るとき、叔父がぶどうを作っていて、うちの冷蔵庫にはぶどうがいっぱい、お風呂に入るとき、冷たいぶどう粒をお湯の中にチャポン。目をあけて石拾いのように拾ってはぬるくなつたぶどうを口に入れていました。母もあきれ顔。二十五年以上も前のことです。

◆ぶどう狩りに行って、漬版になるほど食べて「これでよし、元をとった」と思いきや、イラに背中を刺されてしまったんだらけになった思い出があります。